



熊本信愛善哉会
熊本市上林町3-18
TEL354-5355(代)
印刷 橋本印刷
TEL(0968)38-2020



会長挨拶
善哉会会長 宮崎マサ子

同窓生の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より、会員の皆様には同窓会の活動に温かいご理解と多大のご協力をいただき、心より感謝いたしております。

本年度も続けて、同窓会活動目標「同窓会の輪を広げよう」を挙げ、本部役員は微力ながらも精一杯務めさせていただいております。

二回目の成人式とも言える記念の年を迎えた四十歳の同窓生を母校へ招待し、共に祝いをしたという願いと、同窓会の輪を広げるために考えた企画です。名称は、「善哉成人会」と申しまして、六月第一土曜日(六日)に行いました。本年は、昭和六十一年卒業の県内在住者に案内状を送つたら、初めてというのに二十六名の出席でした。お子さん連れで賑やかな楽しいひと時を過ごすことができ、私達役員も嬉しゅうございました。

次に、毎年行っている主な活動をご紹介します。

(一) 毎月第一火曜日、月例役員会を行います。いつも和やかな中で先輩後輩なく、議題について真剣な意見交換をし、活動がスムーズに進むよう話し合っております。

(二) 七月第一土曜日、支部長会を開きました。本年で第七回を迎えましたが、年に一度の集まりで各支部の情報交換を行います。各支部での集いで同窓生の親睦を深め同窓会の輪を広げてほしいと願っております。

(三) 十月、母校の華秋祭に参加いたします。同窓生の作品展やバザーを行います。絵画・書道・手芸・陶芸などいろいろ出品していただき、賑やかに飾られています。

当日は還暦学年会を行います。同窓生に今の信愛を見てもらったり、祝いの昼食をとり乍ら歓談をしたりして楽しい一日を過ごしていただきたいのです。本年は、昭和四十三年卒業生へご案内いたしました。早くから県外の卒業生からも問い合わせがあつて、お会いするのを楽しみにしております。

「部活動振興基金」設置

昨年十一月、初の試みとして「平成二十年二月二十一日全国高校駅伝大会出場」と本年二月「平成二十一年三月二十日全国高校バレーボール大会出場」応援の寄付願いの葉書を五〇〇名の同窓生に送りました。皆様方の温かいご理解と深く大きなご支援、駅伝大会で四〇万四千元、バレーボール大会で三十三万九千円の寄付がありました。駅伝大会で二十五万円、バレーボール大会で五万円を贈呈いたしました。必要経費を引いて三月末に八万七千五百円残りました。

本部役員会で話し合った結果、同窓会でも母校の「部活動(文化・スポーツ)振興基金」を立ち上げようということになりました。母校の

で、嬉しく思っております。

(四) 二月、二つの行事があります。一つは、卒業していく新クラス役員と本部役員との親睦会です。

これは、役員のご役割について自覚認識をしてもらい、役員として大いに活動してほしいのです。平成十五年から始めましたが、新クラス役員は、真剣に受け止めて下さり頼もしいかぎりです。もう一つは、卒業していく三年生を迎える同窓会への入会式です。心ばかりの記念品贈呈を行い、新しい同窓生と親しくなりたいものだと大歓迎です。

以上述べました他に、支部設立に取り組んでおります。

現在、県内に十五か所の支部がありますが、今後も県内各地に支部設立を準備中です。吉村先生・小出先生・小田先生方から世話人を紹介していただき、できるだけ早く発足へと進めていきたいと思います。同窓会の輪を広げていくためにも、支部設立は必要だと思っております。皆様の尚一層のご協力をいただきますようお願いいたします。

来年は、母校の創立一〇〇周年を迎えますので、同窓会は、来年五月十六日(日)「創立一〇〇周年記念大同窓会・音楽祭」を計画しております。創立者メール・ボルジア先生の偉徳を讃え、共に創立一〇〇周年を迎える母校を祝う会を行いますので、多数の同窓生がご出席くださいますようお願いしております。

最後になりましたが、会員の皆様方のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げてご挨拶とさせていただきます。



同窓生のみなさまへ
理事長 松尾 京子

自分の目から丸太を取り除きなさい。そうすれば、はつきり見えるようになる。ルカ福音書より

この夏、福岡宗像にある黙想の家に一週間滞在したときのことです。ここには、こんもりと茂った森の一角に、御受難修道会本部があります。玄関前の中庭中央に置かれている超等身大のキリストの像とその背後に、「ごめんなさい」と身をすくめて立っているローマ兵士二人の像が、私の心を捕らえました。私はそこに暫く佇み、十字架上で処刑されたキリストの「ゆるし」の言葉を思い出しました。キリストは耐えがたい苦しみの極限の中で、「神なる父よ、彼らは自分たちが何をしているのか分らないのです。どうか、彼らをゆるしてください。」と祈られたのです。「ゆるす」ということは簡単ではないことを誰もが知っています。

私はローマに九年いて、お互いに遠慮もなくな「言わないと損」とばかりに自分を主張するようになっていました。夏の暑い日のことでした。外出して戻ったのは、午後の一時すぎ、疲れ切つて空腹を感じておりました。カナダ人のシスターは、私の顔を見るなり、「急ぐから、これをやってください。」と頼んだのです。「昼食後でいいでしょう。まだ食事してないから。」と私が言

後輩は、文化面では毎年俳句甲子園大会に出場しています。スポーツ面では陸上・バレーボール・新体操・バドミントンの各々が活躍し、母校「信愛」の存在を大きく示しております。私達同窓生は、後輩の頑張りに大きな喜びを持ち誇りに思っております。

「部活動振興基金」を設置した二十一年度からは、一年に一回だけの寄付願いをすることに決め、六月からは寄付願いの手紙を送らせていただきました。

皆様方の温かく大きなご支援で郵貯銀行、又は肥後銀行へ振り込んでいただいております。中には学校へ直接持って来て下さる方や会長宛てに現金書留で送って下さる方もあつて感激し、心から有難く思っております。

母校の後輩が、ますます頑張つていきますよう私達同窓生もしっかりと応援していきましょう。

この振興基金の設置をまだ広く知らせておりませんので、クラス会や学年同窓会や支部の集いなどでも、会の担当者にご設置を知らせてご協力をいただきたいと思っております。

出費多端な折ですが、皆様方のますますのご支援ご協力を心よりお願いいたします。

振り込み先の問い合わせは、同窓会事務局へお願いいたします。
TEL〇九六―三五四―一五三五
責任者 会長 宮崎マサ子

つても彼女はききません。立腹しながら、その用件を片づけました。そして部屋を出る時、不快さをもろに表して、戸を思い切りビシヤツ！と閉めました。院内に響きわたるように！それから、私は自分の心の中よりも、彼女の心の中の糾明をしてあげました。「なんと、あの人は自分勝手なのか、思いやりも何もない、人が疲れて帰つたきたというのに・・・云々」とお経を口ずさむかのようにならざるを得ませんでした。すると私の部屋の戸をノックして入ってきた彼女は、私に近寄り両肩をしっかりと抱きしめて「ごめんなさい。私が悪かった。」と詫言いました。その途端に私の頑な心がすつかり溶けて、私は心から悪かったと言えたのです。私が反対の立場だったら、傲慢な私は彼女のように謙遜になれなかつたでしょう。この時初めて自分の欠点に気づき、ゆるしの必要なことを思い知らされたのでした。人は苦しみを通して、少しづつ悟る恵みをいただくのでしょうか。

聖書の中で、ルカはキリストの言葉を私達に伝えてくれます。(ルカ六章四十二節)。自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かつて「さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください」とどうして言えようか、偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はつきり見えるようになる。兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。

「ゆるし」と「愛」は表裏一体ですね。在校生の皆さんは皆様方が築いてこられた素晴らしい信愛女学院の精神とよき伝統をしっかりと受け継いで頑張っております。

時節柄、皆様くれぐれもご自愛ください。ご健康をお祈り申し上げます。

創立110周年を記念しまして、母校の校章をかたどった携帯ストラップを作りました。
1個500円で好評販売中です。
携帯ストラップ 販売中
問い合わせ先
090-5080-8432 (工藤)

支部紹介

- 同窓会や学校からのお知らせが、確実に、早く、多くの同窓生の方々に届くように熊本県下に支部を設立しています。また、各支部では、地域単位で同窓生の親睦をはかり楽しく活動しています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。
- 善哉会会長 宮崎マサ子
 - 関東支部 支部長 川野映子
 - 関西支部 支部長 里内ハマ子
 - 宇土支部 支部長 内田道子
 - 酒水支部 支部長 高見伸代
 - 南阿蘇支部 支部長 長野敏子
 - 合志支部 支部長 松本恵美子
 - 植木支部 支部長 福島敦子
 - 小国郷支部 支部長 北里香代
 - 一の宮支部 支部長 松下玲子
 - 熊本南部A地区支部 支部長 木村須美子
 - 熊本中央A地区支部 支部長 松崎幸子
 - 天草上島支部 支部長 平田美智子
 - 石垣支部 支部長 高木千景
 - 沖繩本島支部 支部長 桑江ひとみ
 - 熊本北部A地区支部 支部長 村上栄子
 - 熊本西部A地区支部 支部長 窪 京子
 - 熊本東部A地区支部 支部長 御法順子
 - 熊本西部B地区支部 支部長 今村二重



2010年は母校創立110周年を迎えます。

創立者メール・ボルジア先生の偉徳を讃え、共に母校創立110周年を祝い、大同窓会を開催いたします。あわせて本校卒業生の亀山勝子氏（S38卒）による音楽祭も企画しております。同窓生の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

「創立110周年記念大同窓会・音楽祭」

日時：平成22年(2010年)5月16日(日)

11:30～ 総会
12:00～13:00 祝賀会
13:00～14:30 亀山勝子ご夫妻による音楽会「ザ・クラシック笑(ショー)!!」
ソプラノ歌手亀山勝子さんとピアニストのご主人亀山法男さんのコンサートライブです。薔薇会だより今号の「同窓生訪問」でご紹介しています。
<http://www.kamesan-kikaku.com/>

場所：熊本ホテルキャスル 熊本市城東町4-2 TEL 096-326-3311
会費：7,000円



還暦学年会

平成20年10月25日、母校の華秋祭（文化祭）において還暦学年会が行われました。



昭和42年3月卒業の皆様が母校の同窓会室に集い、恩師を囲んで懐かしいひと時を過ごしました。今年、細川佳代子さん（娘さんお二人が同窓生）の飛び入りもあり、賑やかでした。

「還暦学年同窓会に参加して」 三好 ひとみ（昭和42年卒業）

他人事のように思っていた還暦、60歳を迎え、これまで何事もなく元気ですごせた事、幸せです。平成20年度、信愛女学院華秋祭の日に、本校同窓会室で還暦学年同窓会を催していただきました。ご案内をいただきクラスメートに呼びかけ、少人数ではありますが3年間お世話になった吉村正美先生を囲み、学生時代に帰り色々な話に花が咲きとても楽しいひとときでした。

他のクラスのお友達ともなつかしい先生方のお話等卒業して42年目と言うことで、元気で再会出来たことに感謝しました。また、同窓会の意義深さを感じました。

この会は毎年開催されていると知り役員の皆様方のご苦労が大変だった事と頭が下がる思いです。

本年度より、私共学年がお世話することになり43年卒業の皆様方にご案内をさしあげ華秋祭の日に楽しんでいただこうと計画しております。先輩後輩の皆様との出会いを大切にすることが同窓会の輪を広げ、薔薇会の発展につながるものと心より願っております。



薔薇成人学年会

平成21年度は、新しい企画として「薔薇成人会」を企画いたしました。

今年40歳をお迎えになった同窓生を母校にお招きして、2回目の成人式をお祝いしました。今年、初の試みで、参加の申し込みがあるのをご心配されましたが、26名のご参加を頂きました。

少人数ではありましたが、吉村正美先生、高木悦郎先生、小田干城先生、山田和徳先生にもご出席していただき、心温まる楽しい会となりました。

毎年6月の第1土曜日に開催する予定です。平成22年度は昭和62年ご卒業の皆様をご案内いたします。皆様のご参加をお待ちしております。



「あれから22年・・・」 米野 結貴（昭和61年卒業）



「元気だった?」「あらあ・・・」「変わらんねエ」久しぶりの再会にもかかわらず、会話をとりもどすに、時間はかかりませんでした。

薔薇成人会として、2回目の成人を迎える年にと、企画していただきました。集う場所は「学食」。当時は寮生のパラダイスでしたので、一般学生は入ることはありませんでした。その学食に入ってみて、券売機にびっくり。デザートがあるのもう一度びっくり。時の流れを感じました・・・。

おいしいランチをいただきながら、当時の先生方にもご参加いただき思い出話が途だえる事もなく続いていきました。いっそ、このまま制服を着て座っても気付かれないのでは!!などとあつかましい気持ちも抱きながら楽しい時を過ごしました。

当時は「厳しい校則」と闘いながら精一杯やっていたように思いますが、当り前の事なんだな・・・と気付くには、学舎を巣立ち、しばらくしてからなのかもしれません。

卒業以来、久しぶりに母校を訪問することで自分自身を見つめなおすにもよい機会だったと思います。今回再会できなかった友へ、次回を楽しみにしています。ところで「変わらんねエ」とは、成長していない事なのか、又は喜んでよいものか・・・。

訃報

本校の校長先生として昭和58年4月から平成8年3月まで在職されましたシスター田川シゲ子が、平成21年1月3日急逝されました。

和歌山信愛女学院理事長在任中で享年82歳でした。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

この度の会報発行にあたり、快くご協力いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。今後も同窓生の輪を広げていきたいと思っております。皆様からのご意見や情報、楽しい記事などお寄せください。お待ちしております。今後とも、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

編集委員一同



亀山 勝子(昭和38年卒業)

同窓生訪問

最近のステージで感動的な出来事がありました。主催者代表のご婦人は、なんとおん年百歳。私に花束を下ささり、こう語り始めました。「私の何十年という人生の喜怒哀楽を貴方がたは一時間で音楽にまとめて下さいましたね。こんな感動は今までありませんわ!。私は思わずご婦人を抱きしめ離れませんでした・・・。信愛女学院卒業後、国立音楽大学へと音楽一筋。大学を首席で卒業し、そのまま国立音大で講師を三十年近く務めました。が、意を決して退き、夫と共に東京を拠点に音楽（ステージ）の旅が始まりました。

自分の歩んでいる道は歩んでいるのではなく歩ませてもらっているんですね。お世話になった諸先生諸先輩、それに私を産んでくれた父と母に感謝の念で一杯です。朝礼の際校歌や聖歌を独唱させていた。木村リョウ校長様より国立を出たらぜひ信愛の教師にと約束された私。演奏後の「礼」の写真が美しいと校長室の倫理（礼儀作法）の部屋にその写真が掲げられていたこと等がとも思い出深く残っております。来年の大同窓会には私共の「ザ・クラシック笑(ショー)」を催して下さるとのこと、ワクワクドキドキする音楽会です。私もワクワクドキドキして演奏させていただきます。